

2015年ITU無線通信総会(RA-15)への 対処についての答申概要

「国際電気通信連合 (ITU) 無線通信総会 (RA) への対処について」

(平成6年1月24日付け電気通信技術審議会諮問第1号)

国際電気通信連合無線通信部門 (ITU-R) 無線通信総会 (RA) への対処として

(1) RAに提出される勧告案等に対する評価

(2) RAの研究課題の望ましい作業計画

について答申する。

RA-15概要

- ・開催日、場所：平成27年(2015年)10月26日～30日、スイス連邦ジュネーブ
- ・参加資格：主管庁(193加盟国)及び無線通信部門セクターメンバー(269メンバー)
- ・主な議題：
 - ① 研究委員会(SG)から提出された勧告案等の承認
 - ② 次研究会期における研究課題案の承認

S Gから提出された勧告案の承認

	文書	勧告名	概要	種別
勧告案	M. [AMS (R) S. METHODOLOGY] -0	1 545-1 555 MHz (space-to-Earth) 及び 1 646.5-1 656.5 MHz (Earth-to-space) GHz帯に おけるRR44条の優先カテゴリー1から6に関連する AMS (R) Sの周波数要求量の計算方法	無線通信規則(Radio Regulations)第Ⅷ章「航空業務」 第44条「通信の優先順位」の優先カテゴリー1から6に関連 するAMS (R) S(航空移動衛星(R)業務)の周波数要求量の 計算方法を示す。	新規
	M. [BSMS700]	第1地域の694MHz以下の既存サービス保護に必要な、 694-790MHz帯IMT移動局の帯域外発射制限	第1地域(欧州、アフリカを主とする地域)での、694MHz以 下における既存サービス(放送業務)保護のための694- 790MHz帯で運用するIMT移動局からの帯域外発射制限に ついて、主管庁に対して指針を示す。	新規
	M. [AMS-CHAR-15GHZ]	14.5-15.35 GHzの周波数帯における航空移動業務 システムのための技術特性及び保護基準	15GHz帯を利用する航空移動業務(AMS)の技術特性及び 保護基準を規定する。	新規
	M. [VDES]	VHF海上移動帯におけるVHFデータ通信システムの 技術特性	主に船舶の安全運航に関する通信に使用されているVHF 帯の海上通信をそれ以外の通信にも利用できるようにす るため、新たなデータ通信方式VDES(VHF Data Exchange System)を導入するための技術特性を定める。	新規
	P. 834-6	対流圏屈折が電波伝搬に与える影響	対流圏遅延推定の計算式について、推定精度を向上さ せる修正等をする。	改訂
	M. 541-9	海上移動業務におけるデジタル選択呼出装置を 使用するための運用手順	海上移動業務におけるデジタル選択呼出装置(DSC)を使 用するための運用手順についてMOB(man overboard:海 中転落者)デバイスに関する運用手順の追記等を行う。	改訂
	M. 1036-4	無線通信規則(RR)におけるIMTに特定された 周波数帯のIMT地上コンポーネント導入のための 周波数配置	IMT地上系の周波数アレンジメントの450-470MHz, 694- 960MHz, 1710-2200MHzの各帯域に新たな配置を含める。	改訂

SGから提出された決議案の承認

	文書	決議名	概要	種別
主な決議案	決議11-4	開発途上国のためのスペクトル管理システムの開発	開発途上国向けスペクトラム管理システムの開発支援に関するもの。	改訂
	決議17-4	IMT (IMT-2000及びIMT-Advanced) の既存網との統合	IMT方式の既存ネットワークへの統合については多くの国で実現されており、本決議の目的は達せられたと考えられるので削除を行うもの。	削除
	決議22-3	国内無線スペクトラム管理慣行と技術の改良	開発途上国の国内スペクトラム管理の技術改良に関するもの。	改訂
	決議23-2	国際監視システムの世界規模への拡大	有害な混信を除去するために国際的な電波監視の協力に関するもの。	改訂
	決議50-2	継続的IMTの開発における無線通信部門の役割	IMTについてのITU-R活動工程に関連する研究委員会において整備し効果的に作業が進捗するよう規定した決議について、関連WISA決議等の追記等、所要の現行化を行うもの。	改訂
	決議54-1	短距離無線通信機器 (SRDs) の協調に向けた研究	SRDsに関する研究、並びに、世界的又は地域的調和のための周波数に関するもの。	改訂
	決議56-1	IMT(International Mobile Telecommunications)の名称	「IMT-2000」(3G)、「IMT-Advanced」(4G)等のIMTの名称を規定する決議に、5Gの呼称として「IMT-2020」を盛り込むための改訂を行うもの。	改訂
	決議58	コグニティブ無線システム (CRS) の実装と利用に関する研究	CRSに対する研究方針に関するもの。	改訂
	決議 [IMT. PRINCIPLES]	2020年以降のIMTの将来開発プロセスに関する原則	2020年以降のIMT (5Gとそれ以降)の無線インターフェース勧告等の将来開発プロセスに関する原則(開発作業工程、進め方等に関するもの)について規定するもの。	新規

対処

RAIにおいて審議される勧告案・決議案は、我が国としてもこれまでSGでの検討に参加し、策定に貢献した成果であり基本的に支持。

次研究会期における研究課題案の承認

次研究会期の研究課題案の例

周波数管理関連	【ワイヤレス電力伝送(研究課題210-3/1)】 ワイヤレス電力伝送の運用に最適な周波数帯やワイヤレス電力伝送システムの運用により無線業務が受ける影響について研究する。
電波伝搬関連	【300MHzから100GHzの周波数における近距離無線通信システム及び無線LAN(WLAN)のための伝搬データと伝搬モデル(研究課題211-6/3)】 近距離無線通信に係る伝搬モデルの充実化や適用領域の拡大等、積極的な寄与を継続しており、今後は高周波数帯伝搬モデルの充実等について研究する。
衛星業務関連	【無線航行衛星業務(宇宙から地球、宇宙から宇宙、地球から宇宙)システムの特性及び運用要件(研究課題)288/4】 他の業務又はシステムとの共用及び両立性研究で使用されるための無線航行衛星業務(RNSS)システムの技術及び運用特性について研究する。
地上業務関連	【地上系IMT(International Mobile Telecommunications)のさらなる開発(研究課題229-3/5)】 衛星系を除く地上系IMTについて、更なる高度化のための技術・運用上の課題や特性、周波数の効率的な利用と最適な周波数配置、新たなアプリケーション、端末の国際的流通等について研究する。
放送関連	【放送のための高ダイナミックレンジテレビ(HDR-TV)システム(新規)】 映像のピーク輝度を従来よりも高め、表現できる明暗幅を拡大させることで映像をより鮮明に表現するHDR(High Dynamic Range)について、現行TVサービスから将来のHDR-TVサービスへの移行に伴う技術的条件(システムパラメータ、既存システムとの互換性等)について研究する。
科学業務関連	【20-90 kHzで運用する標準周波数と標準時信号業務の混信(研究課題244/7)】 長波標準電波の送信局間の干渉の定義、強度の測定方法、伝搬計算手法やソフトウェアについて研究する。

(参考) 無線通信部門における今期研究会期(2012 - 2015)の研究体制

2015年9月現在

全権委員会議PP
最高意思決定機関

(4年毎に開催)

無線通信総会 RA
研究課題設定、勧告の承認等

(3～4年毎に開催)

無線通信部門(ITU-R)

**世界無線通信会議
WRC**

無線通信規則の改正等

**地域無線通信会議
RRC**

地域における無線通信に関する協定等の協議

**会議準備会合
CPM**

WRCの準備

研究体制

研究委員会(SG)

SG1

周波数管理

議長: パスツーク(ロシア)

効率的な周波数管理の原則及び技術の開発、分配基準・方法、周波数監視技術、周波数利用の長期戦略等に関する研究

SG3

電波伝搬

議長: アルペッサー＝ラッツブルグ(ESA)

無線通信システムの向上を目的とした、電離媒質及び非電離媒質中における電波伝搬並びに電波雑音特性に関する研究

SG4

衛星業務

議長: ホッファー(米国)

副議長: 河合 宣行氏(KDDI)

衛星業務に関する軌道/スペクトラムの有効活用、システム等に関する研究

SG5

地上業務

議長: 橋本 明氏(NTTドコモ)

移動業務、無線測位業務、アマチュア業務及び関連するシステムとネットワークに関する研究

SG6

放送業務

議長: ドツシュ(ドイツ)

副議長: 西田 幸博氏(NHK)

一般大衆に向けて配信することを目的とし、映像、音声、マルチメディア及びデータサービスを含む無線通信による放送(地上系)に関する研究

SG7

科学業務

議長: ミーンズ(フランス)

時刻信号及び標準周波数報時、宇宙無線システム、地球探査衛星システム及び気象に関する事項、電波天文業務等に関する研究

RAG

無線通信アドバイザリグループ

議長: オバマ(ケニア)

ITU-Rの作業の優先順位及び戦略等の見直し、作業計画の進捗状況の評価

※ 下線は2期目